

第2学年2組 社会科学学習指導案

平成27年5月13日(水) 第2時 2年2組教室 指導者 新實 弘章

1 単元 第4章「近世の社会」

「織田信長・豊臣秀吉はどのように全国統一を目指したのだろうか」(6時間完了)

2 構想

2年2組の生徒たちは、一問一答のように、答えが明確に存在する問いに対して、積極的に挙手ができる。しかし、事柄から予想されることや自分の考えをまとめたり、発言したりする場面では一部の生徒の発言にとどまり、活発な発言は行われなかった。また、資料を読み取る力が十分でないため、写真や絵から気付いたことや、考えたことを発表する場面では、記述や発言も思いつきの羅列になってしまう。そのため、資料から読み取った事実から、お互いの考えを関わらせ深め合う話し合い活動は十分にできていない。そこで、信長と秀吉の政策に対し課題を設定し、確かな調べ学習と小グループでの学習を通して自分なりの歴史観を構築させ、話し合い活動を充実させたいと考えた。

本単元のねらいは、覇を競った戦国大名たちを破り、中世という支配の構造が複雑に絡み合った時代を制覇した織田信長と豊臣秀吉の二人の政策を通して、その全国統一の戦略や思いを理解させることである。ヨーロッパ世界と日本の出会いは、日本に鉄砲やキリスト教などといった新しい技術、文化を伝えることとなった。鉄砲の伝来は戦術の変化を、キリスト教は新しい宗教観を日本にもたらし、南蛮貿易によって日本、ヨーロッパともに莫大な利益をもたらした。当時の日本社会の変化を理解させるうえでも、織田信長と豊臣秀吉の全国統一へ向けての軍事政策、経済政策、宗教政策、対外政策を中心に学ぶ意義は大きいと考える。楽市・楽座や室町幕府の滅亡、仏教勢力に対する厳しい姿勢で、旧時代のしがらみを取り去っていく信長。全国統一を果たし、太閤検地により中世で複雑に絡み合った土地に係る権利をまとめたり、刀狩で身分構造を安定したりと、中世から近世へと繋ぐ政策を実行した秀吉。江戸幕府の統治にもつながる、信長と秀吉の全国統一に対する考えを学ぶ。

本学級の生徒たちは、信長、秀吉について興味がある者はいるものの、その支配や政策の本来の目的や、二人の全国統一が中世から近世への橋渡しを行ったことはほとんど知らない。また、政策の多面性にも気付いていない者が多い。そこで、本単元を設定することで、二人の政策の意味と多面性を理解し、現代までつながる歴史の関係性を考えていくことのできる生徒を育成したい。

今回は自ら資料を追究して、調べた事実を基に、級友と学び合い、為政者の政策に対する考え方、自分なりの歴史観を構築させたい。そこで、本単元の中では、以下の手だてを考えた。

- | | |
|------------------------|---------------|
| ①単元を貫く、学習課題の設定 | ②意欲を活かした確かな調べ |
| ③追究した内容を整理するための小グループ学習 | |

①は、単元のはじめから、終わりまで学習内容に対する生徒の意識が連続するような学習課題を提示する。本単元では、「織田信長・豊臣秀吉はどのように全国統一を目指したのだろうか」と設定する。調べ学習や小グループ学習を行う中で、信長と秀吉の比較を通し、学びを深めていけるように単元を構想していきたい。

②では、①に対しての追究活動を行う。追究活動の中心は、調べ学習である。ここでは、自分たちの考えの論拠になる資料を見つけ、それに基づき自分の意見を確たるものにしたい。生徒に調べたいという意欲をもたせるために、二人の為政者の政策を評価させる。また、調べる前の評価をすることで、自分の考えを裏付ける資料を探したいという意欲につなげる。

③は、②で調べた内容を整理し、さらなる追究活動に向かわせるための手だてとして、小グループ学習を取り入れる。4人1組のグループで、得た知識の共有化を図ったり、共通点、相違点をさがしたり、新たな疑問を見つかったりすることがねらいである。互いの学び合いの場として設定する。

以上の手だてを通じ、自ら資料を追究して、調べた事実を基に、級友と学び合い、為政者の政策に対する考え方を構築できる生徒を育てたい。そして、中世から近世をつなぐ二人の全国統一に向けた政策の持つ意味と多面性を理解し、生徒に現代までつながるような歴史観を持たせたい。

【竜海式ESDカレンダーと単元の関連】

「多面的、総合的に考える力」(最重要視点)

「信長と秀吉の通知表をつけよう」という課題について、根拠となる資料を明らかにしながら発言し、自分の考えと違う立場でも納得のいく意見には、級友の意見を取り入れ発表する。また、為政者や民衆の立場や現代の視点で考えていくことで、事象を多面的にとらえられるようにする。

3 単元の見どころ

- (1) 織田信長と豊臣秀吉の統一事業に関する政策とヨーロッパ人の来航の関わりに、関心を持ち、調べようとする。
- (2) 織田信長や豊臣秀吉の統一事業とヨーロッパ人との関わりが、近世日本の社会の仕組みをつくる原動力となった理由を考察することができるようにする。
- (3) 織田信長と豊臣秀吉の統一事業に関する資料を収集し、情報を適切に選択して読み取ったり、まとめたりすることができるようにする。
- (4) 織田信長と豊臣秀吉の統一事業が当時の日本社会の変革に大きな影響を与えたことを理解することができるようにする。

4 指導計画（6時間完了）

学習内容	生徒の活動・思考の流れ	時間	手だて・支援
<p>○ヨーロッパ人の来航</p> <p>・鉄砲とキリスト教の広まる理由</p>	<p>ヨーロッパ人の来航により日本に広まったものは何か考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南蛮船で来航した南蛮人は日本人と違う格好をしているね。 ・南蛮貿易でヨーロッパの品物が日本へ入ってくるね ・インド航路を拓いたポルトガル人が日本に鉄砲を伝えたね。 ・鉄砲の伝来は日本の戦い方を変えていくんだね。 ・スペインのザビエルが、日本にキリスト教を伝えているね。 ・戦国大名は南蛮貿易の利益にひかれて、民衆はキリスト教の慈善事業を求めてキリスト教が広まっていくんだね。 <p>伝わった鉄砲とキリスト教が受け入れられ、広まっている。</p> <p><さらに、鉄砲とキリスト教は日本をどう変えていくのだろうか></p>	1	<p>【手だて a】南蛮人の服装などの違いに着目させるために、南蛮船と南蛮人の来航の図を掲示する。</p> <p>【手だて b】キリスト教信者が急激に増えたことを理解するために、キリシタンの増加のグラフを掲示する。</p>
<p>○織田信長・豊臣秀吉の統一事業</p> <p>・信長の統一事業</p> <p>・鉄砲の活用</p> <p>・商工業政策</p> <p>・宗教政策</p>	<p>信長の通知表をつけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長篠の戦いで信長は鉄砲を有効活用して勝利しているね。 ・信長は商工業の発展をさせるために楽市・楽座という政策をしたんだね。 ・信長は全国統一を目指し、敵対勢力には厳しい態度で屈服させているね。 ・信長は仏教と対立する立場から、キリスト教を認めているね。 <p>信長は軍事政策だけでなく、経済政策や宗教政策を上手に行い、抵抗勢力を倒し全国統一を目指した。</p> <p><織田信長の後を引き継ぎ、全国統一を果たす秀吉はどのような政策を行ったのだろうか></p>	2	<p>【手だて a】生徒の追究意欲を高めるために「信長の通知表をつけよう」という課題を設定する。</p> <p>【手だて b】鉄砲の有効活用を考えるために、長篠の戦いの図を掲示する。</p>
<p>○織田信長・豊臣秀吉の統一事業</p> <p>・秀吉の統一事業</p> <p>・重要都市と金山銀山の開発</p> <p>・パテレン追放令</p> <p>・兵農分離</p> <p>・朝鮮侵略</p>	<p>秀吉の通知表をつけよう</p> <p>【良い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太閤検地により国の税収が上がると思うよ。 ・刀狩りによって農民による一揆がなくなって、平和になるよ。 ・兵農分離が進み、民衆の管理がしやすくなるよ。 ・キリスト教を禁止したことで、植民地にされる心配は減ったね。 <p>【悪い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太閤検地により、年貢をごまかしていた農民は困るはずだよ。 ・農民は、不満があっても一揆で伝えることができなくなったね。 ・農民は下剋上で成り上がることはできなくなったね。 ・キリシタンの弾圧で、慈善事業の恩恵を受けられなくなったね。 <p>秀吉の行った統一事業によって、全国統一が果たされ、身分と社会の安定がつくられていった。</p> <p><秀吉の政策は良い点もあれば、悪い点もあったけど、江戸時代に続く新しい時代を作っていたんだね></p>	2	<p>【手だて a】生徒の追究意欲を高め生徒の価値基準を明確にするために「秀吉の通知表をつけよう」という課題を設定する。</p> <p>【手だて b】生徒の追究活動の土台が同じにするため、共通の追究資料を生徒にプリントとして与えそこから自分の思いを形成させるようにする。</p> <p>【手だて c】生徒が意見を述べやすいように、評価の根拠として項目を一つずつ挙げて話し合いに参加するように指示する。</p>
<p>○織田信長・豊臣秀吉の統一事業</p> <p>・信長・秀吉の評価の比較</p> <p>・新しい時代へとつながる政策の目的</p>	<p>天下統一を目指し、ついていくなら信長？秀吉？</p> <p>【信長】・楽市・楽座で商人や職人が城下町に集まり商工業が栄え、国が強くなる。(反対意見：座などは無視されてそれまで力を持っていた人から反対される)</p> <p>・部下を能力主義で採用し、出世できる。(反対意見：それまで力を持っていた人からは敵視される)</p> <p>・延暦寺や一向宗など古い勢力を打ち破り、新しい社会をつくらうとしている。(反対意見：焼き討ちや虐殺などやり方がひどく、恨みを買う。仏教を信じる人から反発)</p> <p>【秀吉】・太閤検地により国の税収基盤がしっかりし、農民は自分の土地が確保されるようになり、農業に専念できた。(反対意見：年貢をごまかすことができない。年貢が増えた)</p> <p>・刀狩りによって農民による一揆がなくなって、平和になるはず。(反対意見：農民は不満を一揆で伝えられず、盗賊などからの自衛ができなくなる)</p> <p>・朝鮮侵略で出世のチャンスができる。(反対意見：領地は得られず、略奪や虐殺もあった)</p> <p>二人の思いや手法は異なっていたが、共通するのは、いち早く、かつ長い全国統一を目指した動きであることが分かる。</p> <p><信長と秀吉は旧時代を打ち破り新しい時代を作ったんだね></p>	1 本時	<p>【手だて d】これまでの信長と秀吉の政策に対する評価を自分の価値基準を作り比較する。</p> <p>【手だて e】自分の秀吉への評価の変化が分かるように評価のメーターを使用する。</p> <p>【手だて f】信長と秀吉の政策の共通点から、当時の二人の思いを考え、次の時代につながる点を見つける。</p>

5 本時の授業

(1) 授業名「豊臣秀吉の通知表をつけよう」

(2) 本時の目標

- ・信長、秀吉の政策の評価を考え、話し合う場で、調べた資料を根拠に良い点、悪い点を自分なりの考えをもち、発表しようとする。
- ・級友の意見を聞いて信長・秀吉の行った政策を、為政者・民衆の立場や後世への影響など多面的に分析し、深めることができる。


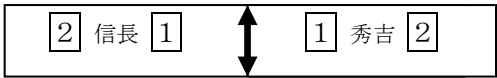
(3) 準備

教師：教科書、資料集、信長、秀吉の行った政策の絵、評価メーター、ネームマグネット、
生徒：ノート、発表資料、教科書、資料集

(4) コミュニケーション活動の位置付け

- ・生徒たちが自分の意見を伝え合うことができるようにするため、全体での話し合いの後、4人グループで「二人の政策の共通点」という視点を持って話し合いを行い、信長・秀吉が行った政策の目的について、考えることができるようにする。

(5) 指導過程

生徒の活動	手だて・支援
<p>1 信長・秀吉の絵を提示し、行ったことを確認する。(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽市・楽座、長篠の戦い、安土城、仏教勢力の弾圧、キリスト教の保護 ・太閤検地、刀狩、兵農分離、重要都市の支配、金山銀山の開発、朝鮮出兵、バテレン追放令 <p>2 本時の学習課題を把握する。(2)</p>	<p>・信長・秀吉の絵を提示し、政策の内容を確認させる。</p>  <p>・本時の学習課題を掲示する。</p>
<p>天下統一を目指し、ついていくなら信長？秀吉？</p>	
<p>3 評価メーターを使い数値を発表する。(3)</p>	
<p>【手立て e に対して予想される生徒の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人に対する評価の変化を確定させ、学級に示す姿 ・二人に対する評価の変化を自ら気付く姿 	<p>【手だて e】</p> <p>自分の信長・秀吉に対する評価の変化を示すために、自分や学級に示しやすいようメーターを使用する</p>
<p>4 信長・秀吉の行った政策について思うことを発表する。(2 2)</p>	
<p>【手だて d に対して予想される生徒の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・級友に自分の考えの根拠を伝え、共感を得ようとする姿 ・自分の意見と発表する級友の意見を比較して、自分の考えを見つめ直す姿 	<p>【手だて d】</p> <p>自分の考えを分かりやすく級友に伝えるため、調べたことの根拠となる資料を提示しながら意見交換する場を設定する</p>
<p>・「予想される生徒の考え」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場が明らかになるよう、資料がある生徒は提示して考えを述べるよう指示する。 ・「信長派」と「秀吉派」に意見を分けて板書し、対立する点や立場が明らかになるようにする。 ・事実についての発言は白チョークで、思いや考えについての発言は黄色で板書する。 ・自分なりの視点で発言する生徒を称賛する。 ・「資料の〇〇から…」と調べた資料を基に意見を出せるように指示する。 ・意見が滞留したり、複雑になったりときは、今
<p><信長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄砲の有効活用を始め、新しい軍制を用いて、戦いに強い ・楽市・楽座で商人や職人が城下町に集まり商工業が栄え、国が強くなる (反対意見：座などは無視されてそれまで力を持っていた人から反対される) ・全国統一を視野に入れ、京都や越前を抑えられる位置に安土城を構えている 	

<信長>

- ・部下を能力主義で採用し、出世できる
(反対意見:それまで力を持っていた人からは敵視される)
- ・延暦寺や一向宗など古い勢力を打ち破り、新しい社会をつくらうとしている
(反対意見:焼き討ちや虐殺などやり方がひどく、恨みを買う。仏教を信じる多くの人から反発を受ける)
- ・キリスト教や南蛮文化を取り入れ、日本をよくしていく
(反対意見:仏教勢力や仏教を信じる人から反対される)

<秀吉>

- ・重要都市の支配と、鉱山開発により収入が上がっていく
- ・太閤検地により国の税収基盤がしっかりする
- ・太閤検地によって、農民は自分の土地が確保されるようになり、農業に専念できた
(反対意見:年貢をごまかすことができず、負担が増えた)
- ・刀狩によって農民による一揆がなくなって、平和になるはず
(反対意見:農民は不満を一揆で伝えられず、盗賊などからの自衛ができなくなる)
- ・兵農分離が進み、民衆の管理がしやすくなる
(反対意見:戦国時代のような成り上がりはできない)
- ・キリスト教を禁止したことで、植民地にされる心配は減る
(反対意見:キリスト教の慈善事業の恩恵を受けられなくなった)
- ・朝鮮侵略で出世のチャンスができる
(反対意見:領地は得られず、略奪や虐殺もあった)

- 5 信長と秀吉の政策のねらいと全国統一への思いを考える。(10)
- ・二人とも、旧時代の決まりごとを打ち破り、新しい時代を作ろうとしていた。

【手だて f に対して予想される生徒の姿】

- ・これまでの意見を振り返りながら、政策と時代のつながりを考える姿

- 6 今日の授業を振り返り、評価メーターを使い、クラスでの最終評価を決めて、授業日記を書き、発表する。(8)
- ・「最初は信長派だったが、秀吉は兵農分離など長い間の支配を考えていたことがわかり、秀吉派になった」

までの調べや、資料に立ち返るように指示する。

- ・調べを基に、具体的な意見をつくることができる生徒を意図的に指名する。
- ・発表された意見に対して、「似ている意見」「付け足しの意見」を促し、できるだけ多くの生徒が討論に加わるようにする。
- ・根拠が薄い意見についても認めるようにする。
- ・「信長」と考える生徒が多い場合は、同盟者の家康の正室築山御前と嫡男信康を武田と内通したということで処刑を命じていることや、謀反を起こした荒木村重の身内を皆殺しにしていることなどを示し、「問題点」として全体に問いかける。
- ・「秀吉」と考える生徒が多い場合は、甥の豊臣秀次を切腹に追いやり、その妻子を皆殺しにしたことや、朝鮮侵略の際の耳塚などをしめし、「問題点」の事実について全体に問いかけをする。
- ・「良い」「悪い」ということを明確にし、級友がどう考えているのか生徒に理解させ、活動5へつなげる。

- ・信長、秀吉の日本統一の願いに迫るために「信長、秀吉の似ている所はどこか考えてみよう」と発問する。
- ・互いの意見を交換し活発な討論を促すために4人で一つのグループを作り、話し合うように指示する。

【手だて f】

- ・授業の中で出た評価を振り返りながら、次の時代につながる共通点を探す場を設定する

- ・学級内での意見を聞いて、自分自身の考えを授業日記にまとめるように指示する。
- ・授業内で級友の意見を聞いて、考えが変容した生徒を意図的に指名して発表させる。
- ・多面的なものの見方をして自分なりの考えを発表できた生徒を賞賛する。

(6) 評価

- (1) 信長、秀吉の政策の評価を考え、話し合う場で、調べた資料を根拠に良い点、悪い点を自分なりの考えをもち、発表することができたか(活動4と活動5の話合いの様子より)
- (2) 信長、秀吉の政策を、為政者・民衆の立場や後世への影響など多面的に分析し、級友の意見を聞き深め、ノートにまとめ、発表することができたか(活動5・6の話合いの様子、ノートより)